

教育を大切にす風土と県民性

❖教育を大切にきた歴史的な風土

- ・長野県は、江戸時代、寺子屋の数が全国で最も多く、明治初期の就学率は全国一
- ・県民のこうした気風のもと、明治期に建築された旧開智学校や旧中込学校の費用の多くが、地元住民の寄付によるもの。
- ・明治時代、他県の優れた教育人材を県内に招聘

❖現在まで引き継がれている教育を大切にす県民性

- ・国に先駆け小中学校で 30 人規模学級を導入
- ・集団登山をはじめとする本県の自然や地域資源を活用した体験型の学習活動
- ・昭和 21 年（1946 年）に全国に先駆けて妻籠公民館を設置
公民館の設置数、利用者数ともに全国で最も多く、地域に根ざした多様な学習活動が活発
- ・人口当たりの図書館数（全国第 2 位。平成 23 年（2011 年））や人口当たりの児童への貸出冊数（全国第 3 位。平成 19 年度（2007 年度））も多く、身近な施設で知識と感性体得。

県民の向上力が築いた健康長寿

❖全国トップレベルの健康長寿

- ・平均寿命：男女とも全国 1 位（男 80.88 歳 女 87.18 歳）(H22)
- ・健康寿命（日常生活動作が自立している期間）も全国 1 位
（男 79.46 歳 女 84.04 歳）(H22)
- ・1 人あたり後期高齢者医療費：低い方から 4 番目 (H24)
（長野県 787,242 円・全国 919,452 円）

❖官民一体で生み出した健康長寿

- ・長野県の平均寿命は、従前、ほぼ全国平均に近いものであったが、現在では、男女共に全国 1 位まで向上。
- ・官民一体で健康長寿に向けた取り組みを実施したことが功奏。
 - 昭和 40 年代以降、医師や医療機関食生活改善推進員や予見補導院、行政などが一体となって保健予防活動を展開。脳血管疾患を予防するための「減塩活動」や「一部屋暖房運動」などの取組を実施。
 - 野菜摂取量（1 人 1 日あたり・H24）：男性 379g(全国 1 位)・女性 364g(全国 1 位)
 - 保健師数（人口 10 万人あたり・H24）：69.5 人（全国 1 位）
 - 保健補導員設置市町村数：77 市町村中 76 市町村
（他都道府県では、全域で活動している事例はない）

大学による積極的な地域貢献

❖ 県内の大学は、積極的に地域貢献を実施し、高い評価。

日本経済新聞社「地域貢献度ランキング」上位						
【2014年度】			【2013年度】			
順位	大 学		順位	(前年)	大 学	国公立
1	信州大学		1	(1)	信州大学	国立
2	群馬大学		2	(2)	宇都宮大学	国立
3	宇都宮大学		3	(5)	岩手大学	国立
4	岩手大学		4	(11)	茨城大学	国立
5	長崎大学		5	(7)	群馬大学	国立
6	大阪市立大学		6	(4)	長野大学	私立(1位)
7	北九州市立大学		7	(3)	北九州大学	公立
8	豊橋科学技術大学		8	(12)	大阪市立大学	公立
9	徳島大学		9	(6)	松本大学	私立(2位)
10	長野大学		10	(14)	横浜市立大学	公立
11						
17	松本大学					

(出典)H26.12.1「日経グローバル」No. 257

企業家精神をはぐくむ土壌

- ❖ 本県のものづくりは、時代の変遷に伴う需要の変化に柔軟に適応。明治期の製糸王国の時代から、戦前・戦後期のカメラや時計などの精密機械工業、現在の電子、情報、自動車部品などの分野へと発展。果敢に挑戦する企業家精神とそれを支える地域の力が脈々と継承。
- ❖ 大手企業が少ない反面、独自の技術で様々な部品加工を担うことができる中小企業が集積。これらの企業が連携し、超精密・超微細な加工技術を活かした医療機器、ナノテクノロジーといった優位性のある技術を活用した新素材の開発など、新たな成長の萌芽。
- ❖ 本県の農業は、たゆみない農業者の努力や技術開発・品種改良により、県内各地の気候や立地条件に適した付加価値の高い作物へ生産を転換。